

ひめじょ通信



発行：第22号（年1回発行）

発行日：2026. 6. 7

広報委員：今村朋子（編集長）・中尾慶子
瀧本千紗・山本裕紀・河野敦美

発行部数：300部

発行元：一般社団法人 愛媛助産師会

（一社）愛媛助産師会 会長 原田恵美

事務局：愛媛県松山市中一万2-1

愛媛県助産師会立まつやま助産院内

E mail: ehime@himejyo.jp

ひめじょ



愛媛県

誰もが安心して産み育てられる 環境の整備に関する連携協定を締結 愛媛助産師会会長 原田恵美

愛媛県と助産師会とは、令和7年10月に、妊産婦が安心して産み育てられる環境整備に関する取組を相互に連携・協力して実施するため、連携協定を締結いたしました。本協定は、相互に連携及び協力し、結婚から妊娠、出産、子育てに至るまでの切れ目のない支援の充実に向け、誰もが安心して産み育てられる環境整備を進めることにより、妊産婦の不安や負担の軽減を図り、母子の健やかな成長を支援することを目的としています。



●愛媛県知事とひめじょロゴマークの前で記念撮影

このような機会を設けてくださいました中村知事はじめ、県関係者の皆様に感謝申し上げますとともにご期待に副う事が出来るのか身の引き締まる思いで締結式を迎えました。知事からのお言葉からも助産師会への期待の大きさを感じました。

私たち助産師は、母子に関わる専門職としての責任と誇りを持ち母子保健のさらなる充実のために県関係機関の皆様と協働し頑張っていきたいと思います。



●締結式に出席した理事の方々

目次	
* ひめじょニュース	1
* 大正湯・産後ケア銭湯誕生	2~3
* 特別取材：ひめじょの活動	4~5
* 研修・イベント開催報告	6~7
* ひめじょのお知らせ	8

NEWS!

ひめじょが  事務所に移転しました！

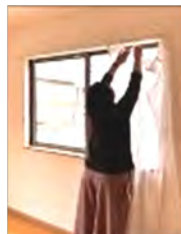
●新事務所

〒790-0054

愛媛県松山市空港通2丁目17番8
ラフィネタウン空港通G棟

Bigニュースです！ひめじょが**新事務所**に移転することとなり、お引越しが無事に完了しました。令和8年5月、晴天に恵まれたこの日、外観も可愛い素敵なお家に、まつやま助産院や城内邸から必要な荷物を運び入れました。荷物の搬入に始まり、掃除やカーテンの取り付けなど、皆それぞれの持ち場で作業し、少しずつ“ここで活動していく場所”としての形が整っていきました。また、今回、元愛媛助産師会（現東京都助産師会）会員の城内さんより、家具をご寄付いただきました。これまで大切に使われてきたものを新たな場所で引き継がせていただけることに、あたたかいつながりを感じています。

思った以上に荷物が多く、運び入れや片付けに時間がかかる場面もありましたが、その分、これからここで始まる新しい取り組みへの期待も大きく感じられる一日となりました。まだ室内の整理はこれからですが、この新しい事務所を拠点に、より一層地域に寄り添いながら、助産師会として活動していけたらと思います。（事務：大田）



🔥地域を温め、母子を救う「産後ケア銭湯（センター）」誕生！

老舗・大正湯から始まる、助産師・高橋さんの新たな挑戦



みなさん、「大正湯」をご存じですか？タウン情報誌やテレビなどで、八幡浜の名物銭湯としてよく取り上げられていますので、ご存じの方もいらっしゃると思います。実は、ひめじょ会員の高橋砂智子さんが営むお風呂屋さんだったのです！

今回は、その八幡浜市で創業100年を超える老舗銭湯「大正湯」を拠点に、2025年9月から産後ケア事業「なないろ助産院」をスタートさせた高橋会員にお話を伺いました。

銭湯と産後ケア・・・、一見意外なこの組み合わせの裏には、地域と専門職をつなぐ、助産師ならではの熱い想いがありました。いざ潜入～！

守りたかった「実家の歴史」と、助産師としての「自分」

「大正湯」は大正4年創業、100年以上にわたり、八幡浜の社交場として地域に愛されてきました。高齢の常連客が毎日集い、顔を見せなくなると「最近あのおばちゃん見んね」と声を掛け合う、温かなコミュニティです。2016年には老朽化で一度閉店を余儀なくされましたが、「歴史をつなぐ大変さを承知で、俺がやる」というご主人の決意により、2018年にリニューアルオープンを果たしました。

高橋さんは、四代目として銭湯を切り盛りする夫を支え、親の介護に励む傍ら、「外勤が難しい今の生活の中で、助産師としての知識をどう活かすべきか」と自問自答の日々を過ごしてきました。総合病院の産科で約10年・700件以上のお産に携わった豊富な経験がある一方で、きっかけと「第一歩踏み出す勇気」がなかったと高橋さんは振り返ります。



転機となったのは、拠点を求めていた原田会長との出会いでした。愛媛助産師会の総会へ向かう車中、高橋さんは打ち明けます。「私には時間とマンパワーが足りん」。すると原田会長は、「自分ではできるけど拠点が欲しい」と。二人の課題がぴたりと合致した瞬間でした。その日のうちに「じゃあ一緒にするか」と話がまとまり、開業届を出したのは総会からわずか数週間後…。「全てがそこではまった」と高橋さんは振り返ります。生活の場である銭湯に、助産師としての専門性が合流し、他にはないユニークなケアの形が誕生しました。



銭湯という「空間」が産後ケアにもたらす3つの価値

「実家だからこそ、この場所のポテンシャルを誰よりも知っていた」と語る高橋さん。銭湯の設備は、産後のお母さんたちにとって驚くほど豊かな資源となりました。

【地域に見守られる安心感】高齢の常連客が集う銭湯は、世代を超えた見守りの場です。「最近あのおばちゃん見んね」と声を掛け合う温かなコミュニティの中に身を置くことで、産後の孤立感が自然と和らぎます。産後に孤独を感じやすい時期に、「地域に見てもらっている」という安心感は、何物にも代えがたいものです。

【お湯に流す🌊非日常の休息】広い湯船と、オプション（1,000円）のヘッドスパ。アロマを数種類の中から選んでもらい、2段ベッドの部屋でマッサージを行うと、「後半5分前ぐらいでみんな落ちます」と高橋さんは笑います。うとうとしたお母さんに、「じゃあご飯までに起こしに来るね」と声をかけ、赤ちゃんは原田さんがそっとあずかります。「普段こんなに寝れないんです」——そのひと言が、この場所の力を物語っています。高橋さんは「日常の疲れを文字通り『お湯に流して』、心身をリセットしてもらうこと」を大切にしています。

【近所ネットワークが支えるケア】昼食は管理栄養士の資格を持つ親族の弁当屋に特注し、彩り豊かなランチプレートとデザートが届きます。隣にはパン屋、その先にはピザ屋。ご近所ネットワークと親族の人脈がそのままお母さんを支えるチームとなっており、地域との結びつきこそがこの施設の最大の強みです。



●栄養満点のランチ

2人体制がもたらす安心感と「つなげる」助産師像

「なないろ助産院」は現在、高橋さんと原田さんの2人体制で、日帰りデイケア（10時～16時）を提供しています。原田さんが訪問でつながったお母さんを施設に案内し、高橋さんが銭湯業務と並行してケアにあたるスタイルです。「原田さんの顔を知っているお母さんが来てくれると、あっという間に和む」と高橋さん。利用者にとっても、「二人の方が安心できる」という声が届いています。

「なないろ」の名前には、「命の色」と「よりどころの色」を合わせ、多様な女性の

人生の架け橋になりたいという願いが込められています。「虹みたいに、架け橋になりたい。誰でも来ていいよ、みんな一緒だよ、という雰囲気を与えたかった」と高橋さんは語ります。産後ケアを受けた子が将来、大正湯に来て、「あんたここで世話になったんやよ」と語り継がれる——そんな循環を高橋さんは夢見ており、大正湯という場所が持つ「つなぐ力」をこれからも地域のために活かしていきたいと考えています。



事業継続の厳しい現実と、行政への訴え

デイケアの公定価格は1日1万円（利用者負担1,000円、補助金9,000円）。しかし物価高騰の中、人件費・光熱費・外注食費を賄うには到底不十分で、利用が増えるほど実質マイナスになる構造です。「これから本当に（産後ケアを収入の）メインにしていこうという若い子（助産師）たちには、この金額では無理。もうちょっと上げてもらわないと困る」と高橋さんは訴えます。

毎年、決算データをもとに県へ報酬ベースアップと加算適用を求める陳情を継続。4ヶ月以上の乳児への加算も来年度こそ取り入れたいと、陳情書を送って交渉を続けています。

高橋さんと原田さんが今の体制を維持できているのは、それぞれに別の収入基盤があるからこそ。だからこそ、将来この仕事だけで生きていく若い世代のためにも、制度の改善は急務だと感じています。

お母さんに一生懸命こっちが向き合ったら、向こうもちゃんと返してくださる。それって子育てと一緒にのかなと思って。やってることは小さいことかもしれないけど、無駄にはなってないって思えました。



最終目標は「全世代の女性の拠りどころ」

高橋さんが地域で活動して確信しているのは、「助産師ってお産だけで役立つもんじゃないんだな」ということ。産後ケアだけでなく、思春期から更年期まで、あらゆるライフステージの女性に寄り添える場所を目指しています。その取り組みの一つとして、すでに乳がんサバイバーへのケアイベントも開催。さらに、介護で地元に戻った同世代の友人が大正湯で悩みを吐き出し、「ひとつ風呂浴びて、帰ったらいい」と言える場所になっています。

「困った時には大正湯に行って、高橋さんに話を聞いてもらおう」—地域の人々にそう思ってもらえる場所をつくること。先祖から受け継いだ銭湯を、今度は地域と次世代のために「つなげる」。その挑戦は、まだ始まったばかりです。



●泊まれる銭湯
一般の方の宿泊も可能です。皆さんも八幡浜で宿泊するなら大正湯に泊まってみては？



●メインのお部屋
産後ケアで使用するお部屋。
レトロモダンなお部屋で落ち着きます。



編集後記

「こういう施設があるなら、もう一人産もうかな」——利用者さんから届いたこの言葉が、高橋さんの何よりの原動力だそうです。生活の中に専門性を溶け込ませた「産後ケア銭湯」は、私たち助産師の新しい働き方のヒントを、優しく提示してくれているように感じました。
(瀧本千紗)

📱なないろの Instagram

特別取材

『にんしんSOSえひめ』スタート

佐伯良子さんにインタビュー

令和7年9月より、思いがけない妊娠などで悩んでいる方のための相談窓口として、「にんしんSOSえひめ」がスタートしました。今回は、相談員の佐伯さんにインタビューを行いました。

●「にんしんSOSえひめ」の活動参加の経緯と背景

Q：この事業でどのような役割を担っておられますか？

思いがけない妊娠に関する相談に電話やメールであたっています。愛媛県内在住の相談員は12名おり、その内のひとりです。

Q：「にんしんSOSえひめ」の相談員になった経緯は？

前職である総合病院での仕事を通して、特定妊婦支援や虐待防止活動に取り組んでいました。そのときに、同僚から「にんしんSOSえひめ」の立ち上げの情報を聞き、これまでの経験を生かして相談員になろうと思いました。

Q：「にんしんSOSえひめ」が立ち上がった背景には、どのような課題があったのでしょうか？

日本の周産期死亡率は低いですが、「0日児死亡」という根深い社会問題があります。その原因として、核家族化、貧困、親との関係性が悪い、などの理由から母親が適切な支援につなげていないことにあります。そうした課題を解決するために、全国ではすでに60以上の団体が活動が始まっていて、それに続き、愛媛県もようやく妊娠に特化した支援窓口をスタートさせました。

Q：助産師会がこの事業の委託を受けたことの意義をどう感じていますか？

病院の支援網からこぼれ落ちる人々へアプローチするため、妊娠を熟知した助産師が「つなぎ役」となる意義は非常に大きいと思います。また、愛媛県では産前産後ケアセンターと連携する体制や県の支援があることも強みとなっています。

●相談員としての心構えと支援の実践

Q：相談者の方と接する上で大切にしている心構えは？

相談者は大きな葛藤の末に連絡してくるため、絶対に否定せず「受け入れられている」という安心感をもってもらうことを最優先しています。相談してくる方のほとんどは自己肯定感が低いので、まずは労いの言葉をかけます。顔が見えない中での信頼関係の構築は非常に難しく、「次はないかもしれない」という覚悟で向き合っています。

Q：助産師の妊娠・出産に関する専門的な知識を相談支援の中でどのように活かしていますか？

助産師としての専門知識をもとに情報を引き出しつつも、それ以上にひとりの人間として関わり、安心できる相手だと感じてもらうようにしています。信頼関係が未熟な段階で支援策を提示しすぎると、かえってプレッシャーになってしまいます。相談者からの情報を多角的にアセスメントし、その人にあった具体的な支援を提示するようにしています。この時には、助産師としての知識に加

え、法制度や各市町村のサービスも熟知しておく必要があります。

Q：相談員として、強く感じておられることは？

病院では未受診妊婦を「胎児への虐待」と見がち

ですが、相談できなかった相手の背景を理解し、責めずに受け止めることが支援の第一歩と考えています。どんな決断をしても「私たちはあなたの味方」と伝え、相談した経験が「受け止めてもらった」という成功体験になることが、その後の人生の糧になると信じています。



●相談の現状と支援の課題

Q：開設以来、どのような内容の相談が多いですか？

電話とメールが半々程度で、相談の多くは「望まない妊娠」や「妊娠したかもしれない」という内容で、10代が64%と大半を占めています。親に言えない学生、貧困、未婚など、複雑な要因を抱えているケースが多いです。このようなケースでは2カ月以上やり取りを続けても直接会えず、支援が長期化してしまうこともあります。それに、途中で連絡が途絶えてしまうケースが最も難しいです。予定日間近の妊婦と話せた後、安否が確認できなくなることもありました。

Q：相談の中で難しいと感じていることは？

当初の想定と異なり、相談者自身が直接会って行政に繋ぐ「同行支援」の必要性が生じています。支援者側の焦りが関係を断絶させるリスクもあり、「妊娠は嘘かもしれないが、何かのSOSかもしれない」という思いで関わり続ける覚悟が問われる感じがします。成功事例はまだなく、今は支援者側が腹をくくる段階にあるのだと思います。

Q：相談に応じるなかで特に注意している点は？

相談員メンバー同士での関わりを大切にしています。支援の難しさに対応するため、全国ネットワークの専門家から助言を得る事例検討会やグループLINEでの情報共有や励まし合いが不可欠です。相談員12人とサンケア（産前産後ケアステーションえひめの略）のメンバーとのお互いを支え合う関係が原動力となっています。

●今後の課題と展望について

この事業の認知度がまだ低いので、支援の存在を広く知らせる広報活動が課題だと思っています。若者が利用する女性トイレへのステッカー貼付、企業や学校、商業施設などでの情報提供が必要です。

核家族化が進む中で、互いを思いやり、誰もが「自分は認められている」と感じられる社会が理想と思っています。助産師は、病院、施設、地域など様々な場所で、その人の人生全体を見据え、退院後の生活まで考えて地域につなぐ「つなぎ役」を担うべきです。誰もがこの役割を意識することで、孤立する女性をなくすことができると思います。

→Page5下段へ

特別取材

『松山市こんにちは赤ちゃん訪問』

野上みきさん(出張専門助産所 nogamidwife)にインタビュー

前回のひめじょうで、松山市の『こんにちは赤ちゃん訪問』がスタートしたことをお知らせしました。そこで今回は愛媛助産師会で、実際に『こんにちは赤ちゃん訪問』を担当している野上さんにインタビューをさせていただきました。

.....

『こんにちは赤ちゃん訪問事業』とは？

地区担当助産師が、松山市からの委託を受け、生後4か月未満の赤ちゃんがいる家庭を対象に、母子の健康確認(股関節脱臼のチェック)、育児相談、子育て支援情報提供をおこなっています。必要時エシバラ検査をおこない、育児環境を把握し、児童虐待予防にもつなげています。



● 訪問で持参するグッズ

こんにちは赤ちゃん訪問の流れについて

まずは保健師から、赤ちゃん出生連絡表を生後2～3週間(最短の場合)に受け取ります。地区担当助産師が訪問先へ連絡し、訪問日程を調整します。基本的に私たちは、ハイリスクではない家庭に訪問を行っています。訪問は通常1回ですが、課題があれば必要に応じて保健師と連携して支援しています。

愛媛助産師会が松山市から委託を受けた当初は、たった5人の助産師で、年間1000件以上ある訪問を担当していました。そのため、ひと月に約20件の訪問をしていましたが、現在は担当助産師が10人以上に増えたので、私の訪問件数はひと月に約10件です。赤ちゃん訪問の報酬は、通信費や交通費、記録管理も含まれて、訪問1件に対して5,000円が支給されています。

助産師がおこなう赤ちゃん訪問の強みとは？

助産師が『こんにちは赤ちゃん訪問』に行くことによる一番の強みは、育児の悩みとして最も多い、授乳の様子を実際に確認し、相談にのれるところだと思います。

保健師では踏み込みにくい母乳育児のサポートも、助産師が訪問することで、母子の自宅での生活や背景を

知り、医療機関では見えない“ありのまま”を受け入れて支援することができます。

訪問からつながる

産後ケアサービスについて

こんにちは赤ちゃん訪問のタイミングは、ほとんどが生後1か月を超えています。訪問した時には、授乳困難感を抱えて悩まれていることも多く、ミルクに移行している方もいます。妊娠期からの母乳育児の準備、産後早期の介入について助産師の役割や重要性を感じています。

松山市では、今年度からオンラインでアウトリーチ(産後ケア訪問型)の申請と予約システムが整えられました。しかし現状は、いまだに産後ケアを知らなかったり、自分には該当しないと考えてサポートを受けられていなかったり、支援が行き届いていないと感じることが多々あります。そのため、出産する(した)女性だけでなく、施設勤務助産師と地域で活動する助産師がつながり、その活動内容を周知することが出来れば、産前産後の助産師ケアが今よりもっと当たり前になるのではないかと考えます。

母子にとって安心できるサポートが、いつの時期でも、どこにいても、継続して受けられるように、働く場所の垣根を越えて助産師が連携できるといいと思います。

.....

取材後記:『困っている人を1人で置き去りにするのではなく、地域全体でつながってサポートするシステム』がとても重要だと考えている野上さん。助産師は幅広い知識と技術が必要な職種であり、大変なこともあります。子育てが楽しい社会になるよう、助産師として尽力していきたいと決意されていました。施設助産師である、私自身もこのような課題を見える化し、地域と施設がつながる仕組みについて考える機会となり、とても貴重なインタビューの時間となりました。

(担当：中尾慶子)

→Page4より

取材後記:佐伯さんへのインタビューを通して、助産師として女性を支えることの意義を改めて考えました。そして、これからも妊娠・出産が「人生で一番大事にされた瞬間」だと思えるような関わりをお互いに行っていきたいと思いを共有しました。(担当：山本裕紀)



にんしんSOSえひめの
HPとステッカー



会員の方が活動時に配ってくださる場合は、事務所でお渡し可能です。

R7
春季研修

分娩期に役立つ フィジカルアプローチ

西山夏実 先生 (maemo atomo CEO) 2025.6.1 : 愛媛県立医療技術大学

身体を動かした後の爽快感が好きで、自分の妊娠中の腰痛対策をきっかけに始めたヨガを細々と続けています。ピラティスは、前回のmaemo atomoさんの研修に参加させてもらったのが初めてでした。もちろん、関節は硬いよりは柔らかい方が…、筋力もないよりはあった方がいいに決まっていますが、出産のための身体づくりで、この筋肉を鍛えた方がいいとか、この関節をどうとか意識したことはありませんでした。分娩介助して10年以上経ちますが、恥ずかしながら「仙骨」を意識したこともありませんでした。今回のmaemo atomoさんの研修を受けて、分娩期に

回旋異常を起こしていたのは、自分たちの関わり方のせいでもあったのかなと反省。第二回旋が第二分類になりやすい姿勢の根拠を聞いて、なるほど！とずっと胸に落ちました。また実践を交えた研修のおかげで、正しい呼吸の仕方理解することができ、これからの妊婦さんへの指導に役立てたいと思いました。(魚師香織)

R7
東予研修

災害時における母子支援の実践と多職種連携

～理論と実践で磨く災害支援のプロフェッショナルへ～

渡邊理史 医師 (高知医療センター産科科長) 2025.11.29 : 川之江文化センター

災害そのものより、災害関連死によって亡くなる方が4倍も多く、避難所のあり方が100年前と変わっていないことに驚きました。講師のご経験やイタリアの取り組みを知り、災害時は日常に戻すための生活支援が最も重要な課題であると学びました。「フェーズフリー」について意見交換し、様々なアイデアも得られました。日常の業務も、そのまま災害時に活かせるか検討改善することが大切だと感じました。「多職種連携」が災害支援に重要であることもわかりました。「BCP」の取り組み

として、復旧復興の目標設定をこれからしていきたいと思います。研修を受け、すぐに完璧な備えとはなりません。フェーズフリーの視点で見直したり、学びを地域のお母さんたちに伝えたりするようになりました。講師の渡邊先生、学び多い貴重な時間をありがとうございました。(三宅彩香)

R7
中予研修

神経発達症(発達障害)の特性のある妊産婦への支援

玉木敦子 先生 (神戸女子大学看護学部看護学科 教授) 2025.12.1~2026.2.28

これまで妊産婦さんに指導し「わかりました」と返事は良いのに、できなかったり忘れている人に対して「何で？」と思っていました。それが神経発達症の特性の一つだと学べて良かったです。神経発達症とわかっている方は少ないので、今後

は全ての妊産婦さんに接するときに「自己肯定感を高め、希望を持つこと」「その人が持つ力・人としての成長を信頼すること」「頑張りすぎているか」「休息と十分な栄養」を心がけ寄り添います。(小林麻須美)

オンデマンド
配信!R7
南予研修

乳幼児期の食支援について

和田広美先生 (宇和島市介護老人保健施設オレンジ荘勤務 管理栄養士) 2025.11.16 : 宇和島市和霊公民館

今回の研修では長年保育所で幼児の食支援に携われた管理栄養士の和田広美先生にご講義いただきました。

最近の妊娠・出産・子育てを取り巻く状況は少子高齢化や核家族化が進み子育てにおいて母親の負担が大きくなっています。子育てする母親の支援に携わる私たち助産師にとってはとても興味深い内容でした。

講義では近年の妊娠・出産・子育てを取り巻く状況、離乳の進め方、食物アレルギーやベビーフードの活用についてわかりやすく説明していただきました。

実習では離乳後期の手づかみレシピでジャガイモのおやきを作り試食しました。作り方も簡単で材料もじゃがいもと削り節と片栗粉で素材の味を感じとてもおいしく、学生以来の調理実習でとても楽しかったです。簡単な昆布だしや野菜のだしの作り方も教えていただきました。離乳初期、中期、後期の形態(おかゆ、やさしい、豆腐)を自宅で作っ

てきて実際に見せていただきわかりやすかったです。実習後に質疑応答の時間をとっていただき離乳の進め方における問題解決法など先生の経験を踏まえわかりやすく説明していただきとても参考になりました。

今回の研修で学んだことを実際に産後ケアなど育児支援の場で活用していきたいです。実習の関係上少人数の参加者でしたがとても充実した研修になりました。和田先生事前準備から本当に貴重なお時間ありがとうございました。(曾根陽子)



東予
イベント

東予さんばフェスタ

2026.3.22 場所：新居浜市ウイメンズプラザ

昨年に引き続き、新居浜市で東予さんばフェスタを開催しました。子育て中のママやご家族を元気に笑顔になってもらうため個性あふれるメンバーが、バランスボールや抱っこ、バランスセラピー、ハンドトリートメントなど、自分たちの得意分野を生かしイベントを盛り上げてくれました。



画として足形アートを行いました。行列ができるほどの大人気！展示コーナーでは性教育の絵本などを紹介すると親子で手に取って読んでくれる様子も見られました。そして、昨年も大盛り上がりだったハイハイレースでは、急遽「あんよレース」が行われ、ハイハイから続く成長を感じられるきっかけになったと参加者から喜ばれました。今年も楽しい企画盛りだくさん、東予地区メンバーとの交流時間も持て、とても充実した一日でした。

(和泉麻実)

中予
イベント

中予さんばフェスタ

2025.12.7 場所：愛媛県男女共同参画センター

12月に中予さんばフェスタを開催しました！当日は、助産師によるハンドマッサージを受けながら育児相談ができ、エステや整体などの身体のケアとともに日々の疲れを癒やしていただきました。リラックスした雰囲気の中で、安心してお話しされる姿も多く見られました。



性教育のブースでは熱心に質問して下さる方も多く、助産師とのやり取りを通して、それぞれの思いや考えを共有できる、あたたかく活発な時間となりました。

また、パパとお子さんお二人で立ち寄って下さるご家族もあり、広々とした和室でのびのびと過ごしていただく様子が印象的でした。学生さんや妊婦さんのご参加もあり、地域助産師とつながっていただく良い機会にもなりました。

(橋本知実)

南予
イベント

南予さんばフェスタ

2025.9.28 場所：八幡浜市母子センター

9月に南予さんばフェスタを開催しました。テーマは「ゆらぎ女子と妊婦夫婦のための自分を大切にする新習慣を見つけよう」とし、10時から13時まで実施しました。告知時期の影響により妊婦夫婦の参加はなく、更年期世代（ゆらぎ女子）を対象とした開催となりました。更年期への理解を深める助産師とのトークタイムを皮切りに、骨盤底筋を鍛えるひめトレ体操、テルミー温熱療法またはハンドマッサージの体験を行いました。参加者からは「とても役に立った」「心構えができた」と好評で、更年期世代を対象とした新たなサンバフェスタの可能性を感じました。ご協力いただいた会員の皆さまに感謝申し上げます。（清家育子）



2025.11.01

アウト・オブ・キッズニア

場所：エミフルMASAKI

イベント 協力&ブース出展

2025.11.03

良い子を産み育てる妊婦の日

場所：愛媛県医師会館



● みきゃんも登場！



● 助産師を目指す学生さんも協力してくれました

2026年5月16日開催 助産師学会で活動を報告してきました！

去る5月16日、東京にて第82回日本助産師学会が開催されました。愛媛助産師会を代表して井伊貴子さんが2題のポスター発表を行い、愛媛での取り組みを全国の場でしっかり発信できました。井伊さん、発表お疲れさまでした！

1 題目：「にんしんSOSえひめ」の取り組み (→Page 4)

2025年9月より愛媛県委託事業として開始した匿名相談窓口の活動報告です。開始から7か月間で延べ311件の相談に対応。相談者の38%が10代、危険度中等度以上が約47%にのぼり、深刻な孤立の実態が浮き彫りとなりました。匿名性を保ちながら関係機関と連携する仕組みづくりが今後の課題です。

2 題目：松山市委託事業「こんにちは赤ちゃん訪問」の取り組み (→Page 5)

2024年4月より実施している乳児家庭全戸訪問事業の報告です。助産師による訪問は2,181件、うち17.8%が継続支援へつながりました。助産師の専門性が育児不安の解消や産後ケア利用の促進に貢献していることが示されました。



NEWS！

愛媛県の助産師を増やそう！

助産師としてキャリアアップしよう！

皆さん**ビッグニュース**です！令和8年度の愛媛県の新規事業として「助産師県内就職応援事業」「助産師キャリアアップ支援事業」が策定されました。詳しくは、県からの通知やひめじょメールからのお知らせでご確認いただきたいと思いますが、愛媛助産師会としても以下のお願いがございます。

●**助産師県内就職応援事業**：会員の皆様の身近で、看護師として働いている助産師さん、休職中の潜在助産師さん、愛媛で働きたい県外の助産師さんなどをご存じでしたら、ぜひこの制度があることをお伝えいただき、県内での就職にご協力ください。

●**キャリアアップ支援事業**：アドバンス助産師の新規取得／更新にかかわる申請や研修等の費用、実習指導者の研修費用等に補助されます。もちろん、ひめじょで開催されるアドバンス助産師の研修(選択研修等)も補助対象ですので、ぜひ制度をご活用ください。

※対象は、分娩取扱施設、産後ケア実施施設(新生児訪問含む)、妊婦健診実施施設の助産師で、施設ごと(病院・診療所や助産所の開設者)に申請するもので、個人申請ではありません。



読んでみん犬(けん)！？

助産学共用試験テキスト

CBT,OSCEで磨く臨床力

- ・全国助産師教育協議会監修
／村上明美 編者代表
- ・医歯薬出版(2025)
- ・7,700円



皆さんは医学部などで実習前の学生の能力を保証するために行われている共用試験をご存じでしょうか？こうした流れが助産師教育でも始まっています。このテキストに掲載されている技術は「**助産師教育における全国統一の標準的な技術**」になり、これからの新人助産師はその方法で学べます。皆様の職場で実施している方法を、一度このテキストで確認されてみてはいかがでしょうか？

ひめじょ Instagram

フォローをお願いします



EHIMEJYOSANSHI

●愛媛助産師会の情報を写真でお届けする**ひめじょInstagram**！皆様ぜひ**フォロー**をお願いします！イベントや研修の様子をタイムリーにお知らせしたいと思いますので、たくさんの「♥いいね」がいただけると嬉しいです。(☆_ _)

ひめじょ LINE公式アカウント

友だち登録をお願いします



●愛媛助産師会の情報を便利に届ける、**LINE公式アカウント**！研修やイベント情報を発信中です。LINEユーザーの方は、ぜひ「**お友だち追加**」をお願いします。**会員・非会員を問わずどなたでも登録可能**です。



日本助産師会 会員マイページ に必ずご登録を！



●皆さん**会員マイページ**の登録はお済みですか？**研修申込**も**修了証発行**もこちらからになります。ここに登録したメールに**ひめじょ事務局からの連絡**をお送りしますので、必ず**いつも使用しているメールアドレスの登録**をお願いします。なおマイページは、パソコン・スマホどこからでもアクセスできますので、うまく活用してください！

★ 新入会の手続きはコチラからどうぞ！

(社)日本助産師会への入会手続きがオンラインで簡単にできるようになりました。QRコードの「**▶入会申し込みはこちら**」のボタンからご登録いただき、自動返信メールの案内に従って入金してください。



- ※入会金：初年度のみ ※
- ※年会費：日本助産師会 + 愛媛助産師会

※学生賛助会員から正会員に移行の方は、入会金は不要です。次年度からは年会費のみの引き落としになります。

(一社)愛媛助産師会 事務局 連絡先

- 住所：〒790-0804 愛媛県松山市中一万町2-1
愛媛県助産師会立まつやま助産院内
- TEL/FAX：089-945-6757
- Email：ehime@himejo.jp
- 振込先：伊予銀行 一万支店(普) 1805570
一般社団法人 愛媛助産師会

ウェルカム ひめじょコーナー

● 東予地区 (6名) ● 中予地区 (8名) ● 南予地区 (2名)

21号以降に**新入会・他県から転入**された方の人数を紹介します。誌面の都合で人数のみ掲載していますので、お名前は、総会要綱の名簿をご確認ください。

編集後記

今回のひめじょは愛媛県との連携協定や県や市からの委託事業など、自治体連携の話題が盛りだくさん！こうした活動は、愛媛助産師会という組織があるからこそ助産師の力を地域の母子や女性たちにつなげられるもので、組織の意義を強く感じます。それが実現できるのも、200名を超えるみなさんのマンパワーのおかげ♡と嬉しい限りです！県の助産師確保の新規事業も始まり、ひめじょが果たす役割はますます大きくなっていますね。もう一つは念願の大正湯の取材！以前、コロナ禍にふらりと訪れたとき「いつかここで助産師活動をはじめたらぜひ取材させて！」と願っていた夢が、ついに叶いました。銭湯ならではの〽️湯二ークな取り組みに心温まる取材となりました！(編集長 今村)

